

尺秀二郎 せうじゅう 教育學者。文久二年二月十五日江戸生れ、昭和九年十一月五日歿（二八二一九三）。號十寸庵、自然。父は藩の大目附役兼學問所監督遠藤氏、維新後新治縣權令中山信安の義子となり、うち英學者尺振八の養嗣子。初の鱸松塘の七曲塾かしまがうに學ぶ。その後英學に志し、尺の共立學舎、アメリカ人クーパーの學校等々轉々とした後、東京師範學校に入學。在學中、素娥自然の戲作名を以て小説「富士の白雪」全二冊（第一編・明治十六年三月、第二編・七月秩山堂書舖）、艶道「嚴書當世女風俗通」（内題「花嬢波の底やどる月影」明治十九年十月吉田操七郎編輯出版、大阪出版會社）等を著す。

卒業後學習院の助教となり、程なく文部省編輯局に移つて新教科書編輯に當つた。次で教育事項取調べを委託せられてドイツに赴くと、留學中編輯局が廢止せられたため、大日本圖書株式會社との間で派遣學生として契約、六年自ら歸朝した。爾後大日本圖書の編輯所所長、東京美術學校教授、東京外國語學校教授、精華學校校長を歴任。

譯書に、鐵學士の名で重譯した、佛ピカール著「政治出世の周道」政治「名寄り木」名（明治二十四年九月二十五日内外出版協會）、「教育原理」（明治四十年十月八日博文館「帝國百科全書」）等の他、自歴を含む

「叢吹隨感錄」（大正五年四月）一冊  
 大日本圖書株式會社）がある。

